

令和5年度教育目標に対する自己評価

認定こども園あけのほし幼稚園

宇田智嘉

①モンテッソーリ教育を研究し、モンテッソーリ教育を取り入れた教育を実践する。

☆今年度は、新たにモンテッソーリの係を設け、各学年の係の先生を中心にカリキュラム作りや、各学年の問題点、課題などを話し合ったり、アイデアを出し合ったりする場となり、子どもの活動に役立てることができた。夏休みに、うみのほし幼稚園の先生と合同で研修を行い教員一人ひとりのスキルが上がった。

《年長》

- ・数や文字、感覚教育など就学につながる教具に取り組むことができた。子どもが教具に触れて気づいたり、納得したりする体験をし、考える力がついている。
- ・一対一で指導する時間をもっとあればと思うことがあった。
- ・提示方法を学年で統一しているが、教員によってばらつきがある。学びあう姿勢を大切にしたい。

《年中》

- ・切る、貼る教材を年間通して行ったところ、力がついた。身についたことが、製作にいかせている。
- ・新しい教具に興味を持って取り組めた。だが、個人差があり、取り組んでいない子どもに働きかけが必要と感じている。

《年少》

- ・日常生活の訓練につながる教具の見直しを行い、教具を増やして子どもの実態に合わせることにできた。
- ・同じ活動でも、扱う教具の種類を変えたり、段階を踏んだものを置くことで、子どもの興味が持続した。
- ・“静寂”“線上歩行”など深く取り組めていないので、継続して取り組みたい。

《2歳》

- ・子どもの実態に合わせて、新しい教具を考案し、自分たちで手作りの教具を準備した。
- ・切る活動を段階を考えて無理なく取り組めた。折る活動も学んでいきたい。

②食の大切さを理解し、日常生活に必要な食事のマナーを身に付ける。

《年長》

- ・感染症予防のために、免疫力について考え、食物から免疫力を高める効果がある食材を学び、食に興味が高まった。
- ・マナーチェック表を保護者につけていただき、家庭の実態を知ることができた。家庭と連携してマナーとして身につけていただきたい点を園だけでなく、家庭でも実践してもらい効果があった。
- ・伝統食や行事食に触れる機会がない子どもがいる。給食で伝統食について話すようにした。

《年中》

- ・食材が持つ栄養について学び、苦手なものも食べようとする姿が見られた。
- ・食材を観察したり、においや味などを知って、絵にかく取り組みをした。楽しい活動となった。
- ・手づかみで食べるなど、マナーが身につけていない子どもを家庭と連携して、箸を使うようにさせたい。

《年少》

- ・食についての絵本や紙芝居など読み聞かせて、興味につなげるようにした。
- ・苦手な食べ物の味付けについて伝えるなどして、一口でも食べられるように働きかけた。
- ・冬には、鍋料理について話したり、考えたりして製作活動につなげるなど、楽しい取り組みができた。

《2歳》

- ・個別に食の興味や関心を把握し、食べられるものを増やすようにした。教員の食べる姿を見せるようにしている。自分で食べる意欲が育った。
- ・食べることが元気な体を作ることとつながっていると伝えている。

③日々の振り返りの中で、お互いに思いを出し合い、友だちも自分も大切な存在であることを知り、人は支え合い助け合って生きることを感じる。

《年長》

- ・生活の中であわただしい日もあるが、子どもが出しているサインを見逃さないようにしている。普段と違う表情や態度に気付けるよう心掛けた。
- ・一日の振り返りの中で、友だちのいいところに気付けるようにした。お互いが認めあえる関係を築いてきた。
- ・遊びの中で自分に都合のいいルールを訴える子どもがいるため、トラブルになると、担任が仲立ちとなって解決するようにした。

《年中》

- ・子どもの表情や行動をよく見て、心の変化に気付けるよう心掛けた。
- ・クラスやグループの中で、自分の思いが出せるような機会を作るようにした。
- ・友だちのいいところに気付けるよう、担任が子どものいいところを認めるようにしている。

《年少》

- ・自分が出せるようになったが、言葉で伝えられない子どももいるので、心の動きに気付けるようにしている。
- ・人とのつながりが育ち、友だちに優しくしたり、友だちを手助けしようとしたりする姿が見られるようになった。
- ・自己を押し出しすぎてトラブルになることもある。担任が仲立ちとなって思いを聞くようにしている。相手の思いを受け入れられるようになった。

《2歳》

- ・言葉で伝えられない年齢なので、子ども一人ひとりの背景や心情に目を向け、深く見るようにしている。
- ・遊びの中で、おもちゃを譲ったり、譲ってもらったりしたら、ほめて認めるようにしている。

令和5年度 学校関係者評価記入シート

学校法人クラレット学院 認定こども園あけのほし幼稚園

評価実施日: 令和 6年 3月

関係者評価委員	令和5年度保護者会役員 茶本 勝善 岡安 直美 学校法人評議員 八百 由美子
作成者	法人職員 片岡 実

1. 自己評価について(取組・達成状況、課題設定の適切さなど)

教育目標①～③の自己評価に対しての、評価委員の評価です

- ① モンテッソーリ教育を研究し、モンテッソーリ教育を取り入れた教育を実践する。
 - ・子に合わせた教具の考察、準備、実践ができています。
 - ・個人差はあるが、子の思考力・実践力に役立っている。
 - ・各学年に合った教具を使った取り組み、学びができています。
- ② 食の大切さを理解し、日常生活に必要な食事のマナーを身に付ける。
 - ・園で食の大切さを学び、家庭でもマナーアップにつながっている。
 - ・年長児には、食事の量が少ない時がある。
 - ・食事のマナーチェック表の家庭と園の連携は、家庭でのマナーを身につける上でも、大変役に立った。
 - ・食や食材の知識を学ぶ際に、興味を持てるよう楽しい工夫がされていてとてもよい。
 - ・食事の大切さ、苦手な食べ物も味付けを考え、食べられるようにしている。食の栄養について学ぶなど、各学年に合わせて食べることの大切さを学んでいることがよい。
- ③ 日々の振り返りの中で、お互いに思いを出し合い、友だちも自分も大切な存在であることを知り、人は支え合い助け合って生きることを感じる。
 - ・友達に対する考え態度も変わってきて、より相手の事を思い行動できるようになった。
 - ・教員が日々、子どもたちのサインに気付けるよう心掛け、良いところを褒めている。
 - ・トラブル時も話し合うことで解決できている。
 - ・子どもたち同士もやさしくなり、助け合ったり話し合ったり、日々成長できている。
 - ・各学年に合った、友だちの作り方、つながりの大切さ、友だちへの優しさ、相手の思いを受け入れること、友だちを自分のように大切に思い助け合って生きingことを学んでいる。

2. その他、園に対するご意見・ご提案等ございましたらお聞かせください

- ・朝の登園時、泣いたりいやがったりしている時、教員にまかせず離れない親がいたり、登園のルールを守っていない親が見受けられる。親が認識できるよう周知してほしい。
- ・世界には満足に食事ができない子どもたちもいることを伝え、食事ができることの感謝の気持ちを育ててほしい。

